

日本顎口腔機能学会
第 34 回学術大会

34th Scientific Meeting
of
the Japanese Society of Stomatognathic Function

プログラム・事前抄録集
Program and Abstracts

平成 17 年 4 月 16 日 (土), 17 日 (日)
April 16 and 17, 2005

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
Institute of Health Biosciences
The University of Tokushima Graduate School

日本顎口腔機能学会第 34 回学術大会のご案内

日本顎口腔機能学会第 34 回学術大会を下記のとおり開催致します。
多数の皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時 平成 17 年 4 月 16 日 (土) 13:35~18:00 (理事会 12:00~13:30)
4 月 17 日 (日) 9:00~11:30

大会会場 徳島大学歯学部 4 階 大講義室 (徳島市蔵本町 3-18-15)

当日会費 1000 円

大会長 中野雅徳

連絡先 〒770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 咬合管理学分野
準備委員長 重本修伺

TEL 088-633-7350
FAX 088-633-7391
e-mail shigemo@dent.tokushima-u.ac.jp

なお、4 月 16 日 (土)、学術大会第 1 日終了後 18:20 より、青藍会館 (エルボ) にて懇親会を行いますので、ぜひご出席下さいませよう、ご案内申し上げます。

以上

会場のご案内 (徳島大学蔵本キャンパス)

<徳島空港から徳島駅までの交通>

主要空港便発着時刻に合わせた空港線か、鳴門線で徳島駅まで約 30 分です。

<徳島駅から蔵本キャンパスまでの交通>

徳島バス (所要時間 8 分、「医学部前」で降車)

徳島市営バス (所要時間 15 分、「医学部前」又は「蔵本中央病院前・大学病院前」で降車)

詳しくは <http://www.dent.tokushima-u.ac.jp/japanese/access/> をご参照下さい。



日本顎口腔機能学会第 34 回学術大会プログラム

大会第 1 日目 4 月 16 日 (土)

理事会 12:00～13:30 歯学部 3 階 第 1 会議室

開会の辞 13:35～13:40 大会長 中野雅徳

一般講演 13:40～14:40 座長 三浦宏之 (東京医科歯科大学大学院 摂食機能保存学)

1. 光学方式と磁気方式による顎運動測定

○石川輝明, 坂東永一, 薩摩登誉子, 重本修侑, 北村万里子, 中野雅徳, 重本貴穂,
郡元治
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学分野

2. 歯科麻酔臨床における開口量の測定

○岡安一郎¹⁾, 山田好秋²⁾, 藤井弘之³⁾, 大井久美子¹⁾
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科,¹⁾ 臨床病態生理学分野,³⁾ 顎口腔機能管理学分野,
²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能学分野

— 休憩 10 分間 —

一般講演 14:50～15:50 座長 沖本公繪 (九州大学大学院 咀嚼機能制御学分野)

3. 楽器演奏時の顎機能解析による楽器歯学分野の開拓

— 管楽器演奏時の咀嚼筋活動 —

○後藤田章人¹⁾, 山口泰彦^{1) 2)}, 小松孝雪³⁾, 岡田和樹¹⁾, 松樹隆光¹⁾, 三好貴之¹⁾ * z
¹⁾ 北海道大学大学院歯学研究科顎機能医療学講座, ²⁾ 北海道大学病院高次口腔医療センター,
³⁾ 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座

4. 摂取可能食品アンケート法による咀嚼機能評価

○越野 寿¹⁾, 平井敏博¹⁾, 細井紀雄²⁾, 清野和夫³⁾, 市川哲雄⁴⁾
¹⁾ 北海道医療大学歯学部歯科補綴学第 1 講座, ²⁾ 鶴見大学, ³⁾ 奥羽大学, ⁴⁾ 徳島大学

— 休憩 10 分間 —

シンポジウム 16:00～18:00

テーマ：「望ましい咬合接触と咬合評価のための各種検査法」

座長 中野雅徳（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学）

1) 「主機能部位と咬合接触」

加藤 均 先生（東京証券業健康保険組合）

2) 「咬合力測定に基づく咬合診断の可能性」

服部佳功 先生（東北大学大学院歯学研究科口腔機能形態学講座加齢歯科学分野）

3) 「咬頭嵌合位における連続的な咬合接触の評価」

田中昌博 先生（大阪歯科大学 有歯補綴咬合学講座）

4) 「機能運動時の咬合接触」

郡由紀子 先生（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児口腔健康科学分野）

懇親会 18:20～20:00 （青藍会館 エルボ）

大会第2日目 4月17日（日）

総会（表彰式）9:00～9:30

受賞記念講演 9:30～10:20 座長 学会長 林 豊彦（新潟大学大学院 自然科学研究科）

学会賞

坂東永一先生（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学分野）

「顎口腔機能の測定と評価」

奨励賞

庄内康晴先生（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座）

「側方咬合位の咬合接触状態が咀嚼運動経路のパターンに及ぼす影響」

本間 濟先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食機能再建学）

「食塊形成能を考慮した補綴治療評価法の開発」

— 休憩 10 分間 —

一般講演 10:30～11:30 座長 山崎 要一（鹿児島大学大学院 口腔小児発達学分野）

5. 側方咬合位の咬合接触部位と咀嚼運動経路のパターンとの関係

○志賀博, 小林義典, 横山正起, 雲野美香, 大内真吾, 藤井重壽

日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座

6. 咬合の発育変化が顎運動に及ぼす影響

○北岡裕子, 郡 由紀子, 山口公子, 西野瑞穂

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 小児口腔健康科学分野

閉会の辞 11:30 第35回学術大会大会長 山口泰彦（北海道大学大学院 顎機能医療学講座）

シンポジウム

「望ましい咬合接触と咬合評価のための各種検査法」

座長 中野雅徳

(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 咬合管理学)

咬合は歯学および歯科臨床の根幹をなすものであり、適切な咬合はより高いQOLを維持するために重要である。しかし、個性正常咬合という用語に代表されるように、望ましい咬合とはどのようなものであるかの間に具体的かつ明快に答えることは必ずしも容易ではない。咬合接触の評価は非常に高い精度が要求され、しかも機能時やパラファンクションにおける咬合接触を捉えるには、時間や力の要素を加味する必要があり、さらにこれを可視化することの困難さは計り知れないものがある。そもそも咬合接触は最も捉えることが難しい生体现象の一つであると言える。今回のシンポジウムではこのようなことを踏まえて、咬合接触評価のための検査法についてそれぞれの専門家にご講演をいただき、適切な咬合接触とはいかなるものであるかの解明をめざす。

1) 「主機能部位と咬合接触」

加藤 均 先生 (東京証券業健康保険組合)

2) 「咬合力測定に基づく咬合診断の可能性」

服部佳功 先生 (東北大学大学院歯学研究科口腔機能形態学講座加齢歯科学分野)

3) 「咬頭嵌合位における連続的な咬合接触の評価」

田中昌博 先生 (大阪歯科大学 有歯補綴咬合学講座)

4) 「機能運動時の咬合接触」

郡由紀子 先生 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児口腔健康科学分野)